

ブドウ「紅伊豆」に対する反射シートの利用法

園試大迫試験地

1. 背景とねらい

ブドウ「紅伊豆」は直光着色品種に近いため、着色時期の果房に十分光を当てることにより品質の向上が期待できる。

そこで、果房付近の光量をできるだけ確保し着色を良好にするため反射シートの効果について検討した結果、一応の知見が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

1) 効果

着色が向上し、房内も均一に着色が進む傾向がある。(図1)

2) 敷設時期

敷設時期が盛夏期に近いと高温による悪影響が懸念されるので、それによる着色障害の危険性の少なくなる9月上旬から収穫時までとする。

3) 敷設間隔

約2m間隔とする。これ以上の間隔とすると反射光量の場所によるむらが大きくなる。

4) 主な市販反射シートの規格等

市販されている主な反射シートの反射能力差は少なく特に問題とはならないが、規格等については多種におよぶので、園地等の実情に合わせ選択する。

3. 指導上の留意事項

1) 着色の向上にあたっては、反射シートの利用は補助手段とし、高品質果実の安定生産のためには、枝かき・房作り・摘房等栽培管理の徹底をはかることが重要である。

2) シートを泥等で汚れたままや濡れたまま保存すると、アルミ表面の劣化による反射能力の低下が早く、耐用年数が短くなるので保存状態には注意する。

3) 適応地域：盛岡以南

4. 試験成績の概要

表1 果実品質

年度	区名	仕立 様式	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	収穫および 調査日
1989	反射シート	短梢	325.1	11.1	16.2	0.66	10月6日
	無処理		343.9	11.7	15.6	0.71	
1990	反射シート	短梢	284.2	11.3	18.9	0.52	9月28日
	無処理		278.9	10.1	18.8	0.50	
1991	反射シート	長梢	304.7	10.8	18.2	0.36	9月26日
	無処理		279.8	10.4	17.7	0.32	
	反射シート	短梢	248.0	10.6	16.3	0.47	
	無処理		222.2	11.1	16.8	0.43	

注) 処理条件 (1) 反射シート敷設期間: 1989年 9月5日~10月6日
 1990年 9月3日~9月28日
 1991年 8月29日~9月26日

(2) 供試資材: ネオポリシャイン 1.5m幅

要旨: 反射シート敷設区の果実品質(糖度・酸度)は、年によるふれはあるが無処理区と比べ同等かやや優る傾向が認められる。

(長梢及び短梢仕立)

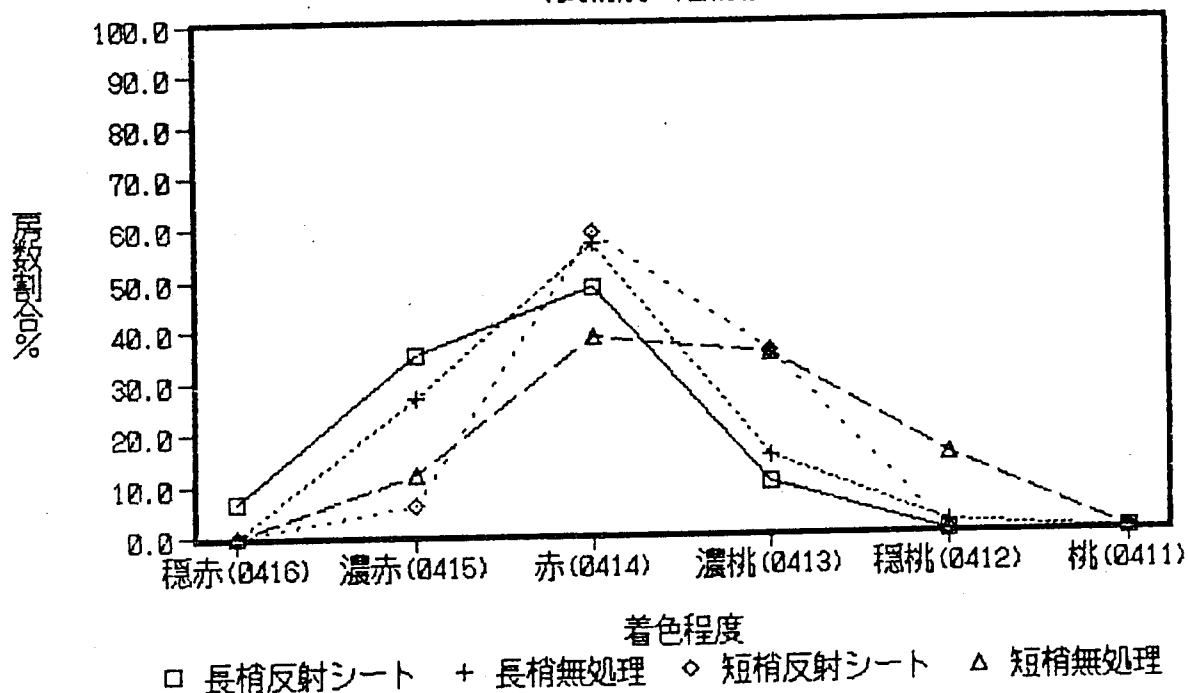


図1 反射シートが果房の着色に及ぼす影響 (1991)

要旨: 反射シート敷設により着色は向上する。(果房色が進み、果粒色は均一になる傾向が認められる)